



THE ROTARY CLUB

OF YAMATO-NAKA

大和中ロータリークラブ会報

ROTARY BRINGS HOPE ロータリーは希望をもたらす

1986~'87 R.I 会長 M.A.T. カバラス

藤田会長 クラブターゲット

楽しく集う ロータリー

第415回 例会 61年10月2日 第421号

出席報告

会員数	出席数	出席率	前回の修正
49名	36名	73.47%	100%

欠席者(13名)

古郡, 布施, 橋本, 亀谷, 神作, 北砂, 小林
古田土, 松本(忠), 三浦, 竹本, 寺田, 辻

ビジター

井上紀和君(横浜瀬谷)

川上茂樹君, 川島教男君, 小林 剛君(大和田園)

《会長報告》

- 新会員候補(藤塚勝明氏)推薦のお知らせ。
- ガバナー訪問の為にクラブ協議会は16日例会。
- 故種ヶ島会員の四十九日法要に参席しました。
- 上村会員の親睦活動支援に感謝します。

《幹事報告》

- R Iより次年度会長がノミネートの報告あり。
- 16日の協議会30日の公式訪問日は全員出席を。

《委員会報告》

- 会員増強(伊藤) 今日より席順を先の増強チーム別にしましたので情報交換等願います。
- ゴルフ同好会(長野) 先日の第1回コンペの

本日のプログラム 10月9日

クラブフォーラム「職業奉仕について」

次週予定 10月16日

クラブ協議会「ガバナー公式訪問に備えて」

司会 SAA 近藤富士男君

ソングリーダー 前原一男君「君が代」
「奉仕の理想」

結果は掲示のとおりです次回もよろしく。

○親睦活動(岩田) 今日お配りした家族会参加
人員申込書は来週9日までに提出下さい。

お祝 おめでとうございます!

創業記念日 富沢重徳君 (10月3日)

《スマイルボックス》委員長 後藤定毅君

井上紀和君, 川島教男君, 川上茂樹君 本日はお
世話になります、よろしく願い致します。

小林 剛君 2回目のお伺いですよろしく。

小島健一君 皆出席のお祝頂きありがとうございます。
これからも頑張ります。

富沢重徳君 創業記念のお祝ありがとうございます、お蔭様
でダイクマも順調です。一層のお買上げを...

鈴木久次郎君 後援会の発会式に色々ご支援を
賜りありがとうございます。盛大に開催するこ

1. 真実かどうか

2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか

4. みんなのためになるかどうか

事務所: 大和市中心1-5-40
大和市商工会館内
☎0462-63-7926
例会場: 大和市大和南1-4-4
八千代信用金庫大和支店4階
☎0462-64-3654

例会日: 毎週木曜日12時30分より
会長: 藤田重成
会長エレクト: 富沢重徳
副会長: 有沢昭三
幹事: 土屋翁二
会報委員: 二見・前原・小林

とが出来ました感謝をこめて。

長野俊八君 第一回クラブコンペには大勢の方の参加を頂き楽しい集いが出来て感謝します。

上村幹雄君 計らずも優勝させて頂きました、私と快よく握って下さった皆さんがくやしがっておられるのを見て快感でした(中略)、ほんの一部をスマイル委員長に献上いたします。

岩田一夫君 ゴルフ会大変お世話になりました。

藤田重成君 ハンデー27をかき消そうと頑張ったが極めて不調に終わった。次回は調子を出そう。

古川 巖君 楽しい一日でした、プービーの三浦さん欠席なのでくり上げて私がスマイル(中略)、岩田さんの御指導で大波賞を頂きました。

近藤富士男君 楽しい一日を過ぎて頂き、長野さんありがとうございました。

清水洋三君 馬券大当り、全額スマイルします。

土屋翁三君 私はゴルフはしませんがウマだけはお付き合いしてます。今回初めて“とうとう”当りましたので一部をスマイルします。

辻 国明君 月初めの欠席お許し下さい、若さを保つ為インドネシアへウインドサーフィンに行つてまいります。可愛い彼女と一緒に……夢の夢、実現を待つ。

山中忠誠君 私用の為早退させて頂きます。

◀ 卓 話 ▶

「米山記念奨学会について」 金井大輔君

日本のロータリーが力を入れている国際奨学事業は、①ロータリー財団奨学金による学生の海外派遣、②青少年国際交換による高校生の交換、③米山記念奨学会の三つですが、我々の推進する米山奨学事業は日本に留学している外国人学生を対象としている点で前の二者とは全く異なり日本のロータリー独自の奨学制度です。

現状の日本における留学生の受入規模は、欧米諸国に比べて極めて貧弱ですがその原因の1つに私費留学生に対する民間奨学制度の不備が上げられます。こうした中で米山奨学は民間最大の本格

的な国際奨学事業である訳です。特にアジア諸国が最も必要としている学問的・技術的指導者の養成に果している役割は高く評価され、多大の感謝が寄せられているとともに、21世紀を展望する日本の留学生政策からもその一層の拡充発展が期待されています。

目的は、学費や生活費の全てを保証するものでなく、私費留学の費用の一部を補助する趣旨のもので、留学生の多くは経済的に恵まれない国々で国許からの送金だけでは物価の高い日本での留学生生活は大きな労苦を伴い、等々の援助の一層の強化を望む声が切実になっております。

使命は単に金銭的援助だけでなく、言語・風俗習慣の違う異国での生活苦と闘いながら想像以上の思いをして勉学をしている留学生は、日本人の中に心の友を求め、日本の生活や家庭をもっと知りたがっています。文化交流の担い手としての彼等は、日本人自身が外国を理解し、なまの対日感情を知る得難い文化使節でもあります。

米山奨学会の歴史は、昭和28年に東京R C創立者米山梅吉氏の功績を記念し設立され、33年に第1回目として8名の留学生に支給され年々充実し、昭和42年に財団法人格となり今日に至っています。

私達の参加は寄附金によるもので、一人当たり年額1000円の普通寄附金と、額・期間は間わない種々の免税措置のある特別寄附金に分れます。表彰規定は、準米山功労者・協力者・功労者・功労クラブ・1000万又は2000万達成クラブに分かれ制度化されています。毎年の予算は3年前の80%を基準になされ、ロータリアン個人の寄附金額を1000円から3500円(年額)に改正することが検討されています。昨年は380名に奨学金を与え、学友会の名簿作りも進んでいるようです。

以上のような観点より米山奨学を見た時、とかく放置されがちな私費留学生により幅広く、より手厚く援助の手を差し伸べて相互理解の輪を広げていかななくてはなりません。(要旨)